

年 組 名前

指定野菜とコメの値上がり幅

	過去5年間の 平均価格(円)	増加率	今年9月の 価格(円)
 ホウレンソウ	164	21%	199
 ネギ	73	16%	85
 トマト	66	32%	87
 ニンジン	41	29%	53
 キュウリ	61	15%	70
 ななつぼし(コメ)	2117	93%	2

※札幌市の調査による。野菜は100グラム、コメは1袋(5kg)。小数点以下は四捨五入

全国的な猛暑の影響を受け、北海道内で野菜とコメの価格が上がっている。国が安定供給を図る「指定野菜」の9月の卸売価格は、全14品種のうちニンジンやホウレンソウなど8品種で、高値だった過去5年の同期から1割超、値上がりする見通しだ。コメの7月の取引価格も前年比で1・72倍に上昇。家計の支出に占める

【1】の割合を示す「エンゲル係数」は、札幌市内で最高水準となり、暮らしを直撃している。

猛暑食卓に冷や水

野菜 8品 1割超値上げ コメ 品薄解消見通せず

「月の食費が半年前に比べて5、6千円上がった。年金暮らしには厳しい」。

9月上旬、札幌市内のスーパード同市北区の主婦

Aさん(78)は値段を確認しながら、トマトとニンジンを買い物かごに入れた。

野菜の値上がりは、円安などに伴う生産コストの増加に加え、今夏の猛暑の影響が大きい。北海道農政事務所によると、札幌市中央卸売市場の9月の卸売価格は、指定野菜のニンジン、キャベツ、ホウレンソウ、ネギ、キュウリ、ナス、トマト、ピーマンの8品種が、2024年9月の平均より、少なくとも11%値上がりする見通し。近年の夏場に続く猛暑による高値に拍車がかかることになる。

北大大学院農学研究院の坂爪浩史教授(農産物流通)は「国際的な肥料や光熱費の上昇に円安も加わり、生

産コストは5年前と比べて約1・5倍に上昇しており、この傾向は当面続く」とみる。

長引くコメの高騰も解消されていない。集荷業者と卸売業者の「相対取引価格」は、今年7月で玄米60kgあたり2万6918円となった。24年産の平均価格は2万4790円で、過去10年で最も高かった19年産を約9千円も上回る。

農政事務所は、猛暑による生育不良や、品薄状態に伴う買いだめ、インバウンド(訪日客)の消費増などの要因を指摘。25年産のコメは前年より56万ト程度増産される見通しだが、店頭に並び始めた新米は高騰しており、市場に出回っても価格が落ち着く時期は見通せないという。

食材の高騰は家計への影響が大きい。共同通信によるエンゲル係数の分析では、支出に占める食費の割

合は、札幌市の24年までの5年間の平均で、過去40年間で最高の26・3%となった。前半は新型コロナウイルス禍で、外出関連の消費が落ち込んだことで、相対的に食費の割合が高まった。その後は、円安の進行や原材料高で食品の値上げが本格化したことが要因になっている。

札幌市がまとめた9月の小売価格調査でも野菜を中心に上昇している。24年までの5年間の9月の平均価格に比べ、野菜は100kg当たりトマトで32%、ニンジンで29%、コメはななつぼしで5kgあたり93%値上がりした。

同市北区のラッキー新琴似四番通店は、5本入りのナスを60円値上げするなど、2カ月前から野菜全般で高値になっている。店側は、来店客が必要な分だけ買えるよう、2分の1カットやばら売りを増やした。内ヶ島幹人店長は「猛暑で全ての野菜が高いものの、キャベツやピーマンはようやく落ち着き始めた。野菜の需要が大きく増える鍋シーズンまでには、通常の価格に戻ってほしい」と話す。

(仲沢大夢)



年 組 名前

道新でワークシート

(1) 見出しに「冷や水」とありますが、これは何を表していますか。

最も適当なものを一つ選びなさい。

ア・「年寄りの冷や水」という言葉の一部を使い、無理な行動を戒（いまし）める様子を表している。

イ・「年寄りの冷や水」という言葉の一部を使い、行動や意気込みを妨（さまた）げる様子を表している。

ウ・「冷や水を浴びせる」という言葉の一部を使い、無理な行動を戒める様子を表している。

エ・「冷や水を浴びせる」という言葉の一部を使い、行動や意気込みを妨げる様子を表している。

(2) に入る言葉を記事の中から探して書きなさい。

(3) に入る数字として適当なものを一つ選びなさい。

ア. 2085 イ. 3085 ウ. 4085 エ. 5085

(4) 指定野菜のうち、記事に取り上げられていない野菜は何かを調べなさい。